

# 合格体験記（一般入学試験）

生活科 学部 食物栄養科 学科 食物科学 専攻

出身高校名 兵庫県立伊丹高等学校

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

高2の頃に、オープンキャンパスに参加させてくれたことで、とても綺麗な校舎や施設を見て、ここで学びたいと思いました。そして、高3になり、もう1度オープンキャンパスに参加させて、いたたいた際に、個別アコースでたくさんお話を伺い、同志社女子大学への受験を決意しました。

(2) 一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

高校3年生になったこの頃は、また全然自分が受験生であるという自覚がなかったのを、あまり勉強していませんでした。週3で塾には通い、毎日必ず、英単語と英熟語の単語カードをまわして、暗記をするようにしていました。英語を主にしていた、英語の長文の音読もできるときは、するようにしていました。

〔夏休み〕

ほぼ毎日、朝9時から夜10時の間は塾の自習室にいらるようにしていました。夏休みは、英語も勉強していましたが、特に生物に力をいれていました。はじめは、問題集を解いていましたが、ほとんど解けないうえに知識が足りていないと気づき、塾の授業の予習・復習を中心に、何度も書いて覚えるようにしていました。少しずつ英語と生物が分かるようになり始め、モチベーションも下がらず、続けられました。

〔2学期～入試直前〕

公募入試を目前にして、もっと勉強時間を増やすようにしました。朝は5時に起き、1時間音読をし、それから30分単語カードと熟語カードを使って暗記していました。国語の勉強を始めたのは、公募入試に落ちたからだったのを、全然時間が足りなかったのと、時間を見つけて、古典単語や漢字を勉強するようにしていました。ほとんど過去問を解いて勉強していました。生物もたくさん過去問を解いて、間違えた問題は、自分のノートに目印を付けて、その単元ごと復習するというのを繰り返してしました。しかし、学校での休み時間まもなく勉強したりせず、どこかちゃんと休憩をして、放課後はすぐに自習室に行くように心がけていました。

(3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

学校行事などは放課後残る時は、全然大きく楽しんだ。スマホに関しては、22時に塾から帰ってきた後は、軽く勉強をしたから、触りたいときは、触っていました。ただ、テレビはほとんど見ないようにしていました。塾では、食事の前後しかスマホを触らないようにしていました。SNSはLINE以外は、全削除していました。はじめは、ひらく感じでしたが、徐々に焦りや罪悪感でルールを作るというよりは、自然と自分のルールができてくると思います。家で勉強することはあまりなく、塾では集中するように、切り替えを大事にするようにしていました。

(4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

私はずっと同志社女子大学に行きたくて、かんぽで勉強しても、模試で悪い結果が続いた。過去問で悪い点数をとったりしても、あきらめずに最後までかんぽしました。計画的に早めにすきま時間を有効活用をすることが大切だと思います。かんぽでくたせ!!